

シリコン製乳房使った再建手術

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 93 》

県立中央病院で、乳がんて乳房を切除した後シリコン製の人工乳房を使って新たに乳房をつくる再建手術の症例数が増えている。乳房を失う喪失感を和らげたり、切除前に近い整容性(見た目の良さ)を保ったりでき、患者の満足度を高めるのに一役買っている。

同病院乳腺外科の井上正行部長によると、乳房の切除後に行う再建はまず、組織拡張器を使って皮膚を広げる。月に1度ほどの間隔で拡張器内



井上 正行
乳腺外科部長

見た目も自然 満足度向上



人工乳房(インプラント)。大きさや形が異なる300以上の種類から自分に合ったものを選ぶ(山梨県立中央病院提供)

に生理食塩水を入れ、数カ月から半年ほどかけて徐々に拡張する。

皮膚が伸びたところで、組織拡張器を除去して人工乳房(インプラント)の挿入術を実施。人工乳房はしずくの形をしたものなど300以上の種類があり、形成外科の担当者と相談しながら残っている乳房となるべく似かよったも

のを選ぶ。

早期(病期Ⅱまで)で、リンパ節への転移のない乳がんが再建手術の対象となる。乳腺外科と形成外科に複数の専門医がおり、同病院は日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会の認定施設となっている。

同病院では、これまで広範囲の切除を必要とする場合、乳房形成術を利用した乳房温存療法を行ってきた。しかし、2013年に人工乳房による再建手術が保険適用され、乳房再建症例は増加。10年には3例であったが15年は7月までに8例の再建手術を行っている。

井上部長は「費用面などで高かった乳房再建のハードルは徐々に下がってきている。病気を治すことに加え、見た目のきれいさを求める女性の患者さんの要望にこれからも応えていきたい」と話している。

第4木曜日に掲載します